



【専門分野】 食と農の社会学、科学技術社会論 フードシステム論

【研究紹介】

現代における様々な変化を、食と農という側面から社会学的に研究しています。環境負荷や地域づくり、文化変容、格差など、食と農を通じて検討することで、身近な問題として捉え直すことができます。

また、遺伝子組換え作物やナノテクなど、食と農への先端技術の応用がフードシステムに影響をもたらしている現代において、科学技術に対するガバナンスのあり方が重要になっています。社会学の観点から問題構造の把握を行い、ガバナンスのあり方について社会に発信できればと考えています。

【著書・論文】

- ・『「ゲノム編集作物」を話し合う』、ひつじ書房、(共著)
- ・「選択する消費者、行動する市民: 食から社会を変える」、秋津他編『農と食の新しい倫理』所収, 昭和堂, 2018.
- ・「ゲノム編集由来製品のガバナンスをめぐる消費者の認識」、『フードシステム研究』24(3): 251-256, 2017. (共著)
- ・『遺伝子組換え作物をめぐる「共存」—EUにおける政策と言説』農林統計出版、2017年
- ・「北米におけるフードポリシー・カウンシルの展開とその含意」、『フードシステム研究』23(3): 299-304, 2016. (共著)
- ・『食と農の社会学』ミネルヴァ書房, 2014年. (共編著)
- ・『遺伝子組換え作物と穀物フードシステムの新展開—農業・食料社会学的アプローチ—』農文協, 2003.



英国のfarmers' market (2014)



米国のバイオ企業調査(2013)

